

地方独立行政法人
市立大津市民病院
公的医療機関等2025プラン

平成29年10月 策定

【地方独立行政法人市立大津市民病院の基本情報】

医療機関名：地方独立行政法人市立大津市民病院

開設主体：地方独立行政法人市立大津市民病院

所在地：〒520-0804滋賀県大津市本宮二丁目9番9号

許可病床数：441床

(病床の種別) 一般病床433床、感染症病床8床(1種2床・2種6床)

(病床機能別) 高度急性期6床、急性期387床、回復期0床、慢性期40床

稼働病床数：403床

(病床の種別) 一般病床395床、感染症病床8床(1種2床・2種6床)

(病床機能別) 高度急性期6床、急性期357床、回復期0床、慢性期40床

診療科目：31科目

内科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、神経内科、循環器内科、心療内科、精神科、小児科、小児循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、リハビリテーション科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、放射線科、麻酔科、形成外科、病理診断科、乳腺外科、救急科、緩和ケア内科

職員数：正規職員

	H29.4.1現在	H28.4.1現在	H29-H28
医師	87人	84人	3人
看護師	437人	454人	▲17人
准看護師	1人	3人	▲2人
薬剤師	19人	15人	4人
放射線技師	19人	19人	0人
医療ソーシャルワーカー	3人	0人	3人
臨床検査技師	16人	15人	1人
臨床工学技士	15人	11人	4人
管理栄養士	3人	3人	0人
理学療法士	13人	12人	1人
作業療法士	5人	4人	1人
言語聴覚士	2人	2人	0人
歯科衛生士	2人	2人	0人
視能訓練士	3人	2人	1人
臨床心理士	1人	1人	0人
事務職員	30人	23人	7人
合計	656人	650人	6人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状（滋賀県地域医療構想より）

- ・ 大津区域は、大津市1市のみで構成されている。

地域の人口及び高齢化の推移

- ・ 大津区域の人口は、滋賀県の総人口の約24.1%を占めている。
- ・ 既に人口減少局面に入っており、今後も減少傾向で推移していくことが予測されている。
- ・ 75歳以上人口は、平成37年（2025年）には、平成22年（2010年）時点の約1.8倍まで増加する予測となっており、以降も平成52年（2040年）まで増加傾向で推移する見込みである。

地域の医療需要の推移

- ・ 高度急性期機能は、平成37年（2025年）には1.13倍、平成42年（2030年）には1.16倍まで増加する見込みだが、その後はほぼ横ばいで推移する見込みである。
- ・ 急性期機能は、平成37年（2025年）には1.22倍まで増加し、その後も増加傾向で推移し、平成47年（2035年）には1.31倍まで増加、それ以降は横ばいとなる見込みである。
- ・ 回復期機能は、急性期機能とほぼ同様で、平成37年（2025年）には1.30倍まで増加し、その後、平成47年（2035年）には1.43倍まで増加する。その後は横ばいとなる見込みである。
- ・ 慢性期機能は、全国的な地域差解消の推計の考え方が反映しているため、平成37年（2025年）は1.03倍と微増だが、その後高齢化の進展に伴い、平成47年（2035年）には1.20倍となり、その後横ばいとなる見込みである。
- ・ 在宅医療等の需要は、大幅に増加する推計となっている。

4 機能ごとの医療提供体制の特徴

- ・ 大津区域の特徴として、総病床数に占める高度急性期機能の病床が多いことが挙げられる。

地域の医療受給の特徴（4機能ごと／疾患ごとの地域内での完結率）

- ・ 高度急性期機能の区域内完結率は、80.5%と比較的高い状況にある。
- ・ 急性期機能の区域内完結率は、79.9%と比較的高い状況にあり、他の区域からの一定数の受入れにも対応している。
- ・ 回復期機能の区域内完結率は、79.1%と比較的高い状況にある。
- ・ 慢性期機能の区域内完結率は、67.0%となっており、区域内の一部の患者は、京都府や湖南区域などへ流出している状況にある。
- ・ 疾患ごとでは、がん、心筋梗塞、脳卒中、肺炎、骨折、外傷等、どの疾患についても概ね区域内で対応できている状況にあるといえる。

図 医療機能別医療需要の推移 [単位：人／日]

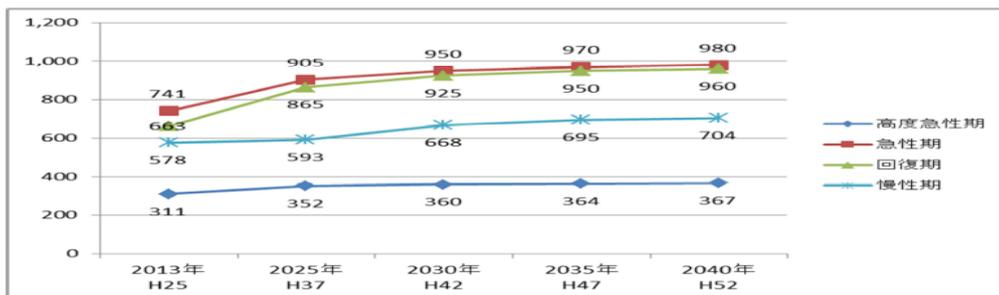


表 医療機能別医療需要の推移（平成25年（2013年）からの増減率：倍）

	2025 H37	2030 H42	2035 H47	2040 H52
高度急性期	1.13	1.16	1.17	1.18
急性期	1.22	1.28	1.31	1.32
回復期	1.30	1.40	1.43	1.45
慢性期	1.03	1.16	1.20	1.22

② 構想区域の課題（滋賀県地域医療構想より）

(1) 高度急性期

- ・広域の病床機能という役割があるため、地域の病床とは別の視点でとらえ、高度・専門医療の提供体制を維持・発展させていく必要がある。

(2) 急性期機能

- ・大津区域全体として充実している状況にあるが、同様の機能を有する病院間の機能分化をさらに進める必要がある。
- ・機能分化にあたっては、主な疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・精神疾患等）や主な事業（救急医療・周産期医療・小児医療等）など、必要な医療機能ごとに役割を明確にしながら進める必要がある。
- ・平均在院日数が短縮される中、急性期から回復期、慢性期、在宅医療等に移行する入院患者や家族が安心して退院できるよう、退院調整機能を強化する必要がある。
- ・精神障害者や認知症患者で合併症を抱えている患者への対応を充実させるために、さらなる病病連携が求められている。

(3) 回復期機能

- ・将来推計では、ニーズが増大することが見込まれることから、機能充実に向けた対策が求められている。
- ・高度急性期、急性期を終えた入院患者の受入れや在宅医療等への流れをつくるため、回復期機能の充実を図る必要がある。
- ・また、在宅療養患者の急変時の対応やレスパイト入院などの提供体制について、急性期機能、慢性期機能との連携を図りながら対応していく必要がある。
- ・平成27年（2015年）10月現在、大津区域における地域包括ケア病棟を有する病院は1病院である。今後増大する回復期ニーズに対応するためには、地域包括ケア病棟の整備、充実が求められている。

(4) 慢性期機能

- ・慢性期の医療需要は増加傾向にある。
- ・慢性期機能のあり方については、療養病床に入院する医療区分1の患者の状態や在宅医療体制、介護施設の整備状況など、大津区域の実態を把握しながら検討する必要がある。
- ・大津区域の慢性期機能は、在宅医療等の提供体制と一体的にとらえつつ、必要な病床機能を確保、充実していくことが必要である。

(5) 在宅医療等

- ・今後増大していく在宅医療等の需要に対応するためには、介護サービスともあわせて、提供体制のさらなる充実が必要である。特に、医療依存度の高い患者や終末期の患者などの日常のケアに対応し、在宅で最期を迎えたいという患者の希望に応えられるためには、そうしたニーズに対応できる診療所や薬局を整備、充実するとともに、訪問看護ステーションの事業所当たりの従事者数の増加を図り、事業所の多機能化、大規模化を進める必要がある。
- ・在宅医療、介護サービスの充実には、医療、介護の切れ目のない連携が重要であり、また入院医療との連携、調整がこれまで以上に重要となる。そのためには、多職種による人的なネットワークとともに、ICTを活用するなどして患者情報を共有するしくみづくりが必要である。
- ・在宅医療等には、認知症患者、がん末期患者、心不全・呼吸器末期患者など多様なニーズがあることから、それらに十分対応できる体制整備が必要である。
- ・退院から在宅療養、在宅看取りに至るまで、また在宅療養患者の急変時の入院対応など、スムーズな流れをつくり、患者のサポートができる体制を整備するためには、病院と在宅療養サービス提供者、また、医療機関と介護事業者などが密に連携するとともに、行政による調整機能の役割も必要である。

③ 自施設の現状

診療実績

	H27年度	H28年度	H28-H27
医業収益(百万円)	10,770	10,987	217
入院診療単価(円)	54,866	55,980	1,114
外来診療単価(円)	12,738	13,581	843
平均在院日数(日)	11.8	12.3	0.5
一般病床稼働率(%)	76.6	82.9	6.3
手術件数(件)	3,970	4,027	57
人件費比率(%)	62.6	61.5	▲ 1.1

特徴

- ・ 4機能のうち、急性期医療の提供が中心である。
- ・ 一般病棟入院基本料については、7対1入院基本料を算定している。
ほか、障害者施設等入院基本料（神経難病病床20床）（10：1看護）、緩和ケア病棟入院料（緩和ケア病床20床）（7：1看護）、特定集中治療室管理料（ICU病床6床）（2：1看護）がある。
- ・ 高度急性期機能としては、ICU病床6床がある。

政策医療

- ・ 5疾病5事業のうち、へき地の医療を除く5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）4事業（救急医療、災害医療、小児医療、周産期医療）について対応している。
- ・ 地方独立行政法人市立大津市民病院中期計画において3疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞）4事業（救急医療、災害医療、小児医療、周産期医療）については、目標指標あるいは関連指標を設定している。

④ 自施設の課題

地域の医療需要や医療機能における課題というよりも、自院の経営上の課題の方が大きい。

- ・ 人件費の削減
- ・ 地域の医療需要に見合う病床の適正化、そして人員の適正化の実施
→病床のダウンサイジングを実施しているが、人員の削減がまだ追いついていない
- ・ 医師や看護師の生産性向上（地方公営企業年鑑より）
- ・ 夜勤の出来る看護師の確保（育児休業者や育児短時間勤務者が多い）
- ・ 収益の源泉たる医事会計業務を直営ではなく委託している
- ・ 法人固有の事務職員を採用し、専門性の向上に計画的に取り組む
- ・ 現金がもともと少ない
- ・ 付属看護専門学校の在り方
- ・ 介護老人保健施設ケアセンターおおつの在り方

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 5 疾病に対する医療の提供と 4 事業（へき地の医療は除く）に対する医療の確保に取り組んでいく。
- ・ 地域医療支援病院として、地域の中核病院として、急性期医療の提供を中心に担っていく。
- ・ かかりつけ医を積極的に推進し、スムーズな紹介逆紹介を地域に展開していく。
- ・ 神経難病病床（20床）を維持していく。
- ・ 緩和ケア病床（20床）を維持していく。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 病床数の最適化を探りながら、現在の急性期病床を維持していく。
- ・ 神経難病病床、緩和ケア病床を維持していく。

③ その他見直すべき点

- ・ 今後の医療需要の推移を反映した病床規模の最適化に取り組む。
- ・ 併せて、病床規模に応じた人員の最適化に取り組む。
- ・ 付属看護専門学校の在り方について
- ・ 介護老人保健施設ケアセンターおおつの在り方について

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	6	→	8
急性期	391		425
回復期	0		0
慢性期	40		0
(合計)	437		433

<年次スケジュール>

現在のところ、病棟機能の変更や病棟の改築及び新築の予定はない。

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○第1期中期計画の適宜見直し	○中期計画年度計画の必達	
2018年度	○第1期中期計画の適宜見直し	○中期計画年度計画の必達	
2019～2020年度	○第2期中期計画の策定	○中期計画年度計画の必達	<p>第7期 介護保険 事業計画</p> <p>第7次 医療 計画</p>
2021～2023年度	○第2期中期計画の実践	○中期計画年度計画の必達	<p>第8期 介護保険 事業計画</p>

② 診療科の見直しについて

現在のところ、具体的な見直しを行う予定はない。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

・ 中期計画に掲載している目標指数については、次頁以降を参照のこと

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】
(自由記載)

③ その他の数値目標について

1 中期計画 における目標項目、目標値及び年度別目標値

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

目標指標	平成27年度実績	中期目標 明示数値等	平成32年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	平成31年度 目標値	備考
がん手術件数	600件	—	650件	610件	620件	630件	640件	「新生物」患者推計人口推移から大津市においてH32年度には入院で8%増加見込み
化学療法件数	1,737件	—	1,900件	1,770件	1,810件	1,840件	1,870件	SIM 全体症例数増加目標に伴う増加見込み分
放射線治療件数	105件	—	120件	105件	110件	115件	115件	微増
脳外科手術件数	293件	—	333件	300件	310件	315件	325件	SIM 脳外科「手術あり」症例数増加見込み分
PCI実施件数	176件	—	213件	183件	190件	198件	206件	SIM 循環器内科「手術あり」症例数増加見込み分
救急搬送受け入れ件数	4,068件	—	4,100件	4,070件	4,080件	4,090件	4,090件	現行でICUフル稼働状況、微増
救急搬送入院患者数	1,437人	—	1,450人	1,437人	1,440人	1,444人	1,444人	救急搬送受け入れ件数に占める入院患者数割合35.3%より算定
救急ストップ時間	54時間	—	0時間	0時間	0時間	0時間	0時間	救急ノンストップ宣言
救急搬送比率	27.3%	—	27.5%	27.3%	27.4%	27.4%	27.5%	救急搬送者全数は過去3年の平均で約14,900人/年、当院での受け入れ件数で算定
救急入院患者数	2,992人	—	3,070人	3,000人	3,015人	3,030人	3,050人	救急患者数の状況は毎年約2万人で、入院患者数の割合はH27年度実績15.34%で見込む
関連指標	平成27年度 実績							
災害訓練実施回数	3回(うち院内1回)							
目標指標	平成27年度 実績	中期目標 明示数値等	平成32年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	平成31年度 目標値	備考
小児科入院患者数	2,637人	—	2,647人	2,639人	2,641人	2,643人	2,645人	SIM 小児科入院患者数見込み
小児救急受け入れ件数	2,288件	—	2,400件	2,300件	2,325件	2,350件	2,375件	救急患者数の状況は毎年約2万人で、うち小児の受診割合約12%で見込む
関連指標	平成27年度 実績							
ハイリスク分娩件数	22件							

目標指標	平成27年度 実績	中期目標 明示数値等	平成32年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	平成31年度 目標値	備考
人間ドック受診者数	3,086人	—	3,300人	3,100人	3,149人	3,198人	3,246人	対予約枠受診率 H27 3086/4860=63.5%、H28も10月末現在63.5%(目標63.8%) H29年度より毎年1%増を目指す
紹介率	49.4%	60%以上	60%	51%	53%	55%	57%	初診料算定患者数に占める紹介患者数の増分を見込み算定(中期目標指示指標)
逆紹介率	70.6%	80%以上	80%	72%	74%	76%	78%	初診料算定患者数に占める紹介患者数の増分を見込んだ逆紹介患者数の増により算定(中期目標指示指標)
地域医療機関訪問回数	227回	—	250回	250回	250回	250回	250回	実績以上の訪問実施
関連指標	平成27年度 実績							
地域医療機関向け研修実施回数	70回							
外来 患者満足度調査(満足+やや満足)	85.2%							
入院 患者満足度調査(満足+やや満足)	95.0%							
転倒転落発生率(レベル2以上)	4.23%							
褥瘡発生率	0.11%							

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

目標指標	平成27年度 実績	中期目標 明示数値等	平成32年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	平成31年度 目標値	備考
医業収支比率	85.5%	100%以上	100%以上	85%	100%	101%	105%	H32年度 108%、収支計画
経常収支比率	88.4%	100%以上	100%以上	91%	92%	108%	112%	H32年度 117%、収支計画

目標指標	平成27年度 実績	中期目標 明示数値等	平成32年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	平成31年度 目標値	備 考
入院診療単価	54,866円	DPC中央値以上	58,500円	55,000円	58,000円	58,000円	58,500円	収支計画
外来診療単価	12,738円	DPC中央値以上	12,000円	12,000円	12,000円	12,000円	12,000円	収支計画
手術件数	3,970件	—	4,570件	4,050件	4,200件	4,330件	4,450件	SIM、近隣病院における手術症例比率約45% (H27実績 43.9%)、全体目標症例数10,162件
病床稼働率	73.4%	82%以上	82%	79%	82%	82%	82%	収支計画
入院患者数	132,011人	133,000人以上	133,225人	146,000人	133,225人	133,225人	133,590人	収支計画 365人/日
外来患者数	229,673人	—	228,420人	228,920人	228,420人	228,420人	228,420人	収支計画
平均在院日数	11.8日	—	11.0日	11.8日	11.6日	11.4日	11.2日	DPC入院期間管理の強化による短縮
DPC II 期間以内患者割合	67.7%	—	70%	68%	69%	69%	69%	SIM、近隣病院における症例数比率約70%
新入院患者数	10,095人	増加	10,952人	10,266人	10,438人	10,610人	10,780人	SIM 症例数増加分
ICU稼働率	106.1%	—	100.0%以上	100.0%以上	100.0%以上	100.0%以上	100.0%以上	現行でフル稼働状況(今後も維持)
人件費比率(職員給与費比率)	62.6%	60%以下	55%以下	62%	58%以下	57%以下	56%以下	収支計画 医業費用の給与費(退職給付引当金を除く)/医業収益
材料費比率	22.3%	20%以下	20%	21%	20%	20%	20%	抗がん剤等高額薬剤を除き算定、収支計画
後発医薬品指数	78%	—	80%以上	78%	79%	79%	80%	DPC機能評価係数II算定のための評価項目、入院医療で使用される後発医薬品の使用割合(数量)で、国は70%を目標とする。経済財政運営と改革の基本方針2016では80%以上と明記
委託費比率	10.6%	—	11%	11%	11%	11%	11%	収支計画

第5 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

<参考指標>

目標指標	平成27年度 実績	中期目標 明示数値等	平成32年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	平成31年度 目標値	備 考
看護師国家試験合格率	93.9%	—	100%	100%	100%	100%	100%	
ケアセンターおっつ入所者数	63人	—	60人	60人	60人	60人	60人	実績 H27年度未入所者数(H27年度 定員100名) 60人 目標値 平均入所者数/日